

小島地区ふれあいセンターだより



令和5年10月 第400号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



10月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
3日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
4日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
6日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
10日(火)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
	小島中学校区青少年育成協議会	
13日(金)	愛宕3丁目自治会給食会	
18日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
25日(水)	小島地区連合自治会連絡会議	
28日(土)	秋の園芸教室	午前10時～12時
	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～12時

ふれあいセンターだより400号を記念して

小島地区ふれあいセンター運営委員会
会長 金子 三智郎

朝夕も涼しさを感じる季節となってきましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

毎月皆様にお届けしています「小島地区ふれあいセンターだより」が、今回400号を迎えることとなりました。

このことは、毎月執筆いただいた皆様のご努力と共に、それを支えていただいた、小島地区の「センターだより」愛読者の多くの皆様の励ましと声援。ふれあいセンターの運営委員の皆様、そして事務所の皆様の協力のお陰と感謝を申し上げます。

この「センターだより」も長い間、A4版の四ページ物として発行させていただいておりましたが、長寿の秘訣は二ページ目三ページ目に、長期にわたり連続した読み物を掲載できていることに尽きると思っています。

過去には、「歴史探訪」の岩永弘先生。「長崎の史跡を訪ねて」の平川辰興先生。「文芸ひろば」の福永玲子先生。今は、「崎陽歳時記」に始まり「長崎雑話」と続く竹方其さん。「長崎“てくてく”町あるき」のMK生さん。紙面を借りまして厚くお礼を申し上げたいと思います。

当然、ふれあいセンターの広報誌ですから、センターの主催行事の広報や、ご意見の掲載、学習グループの活動内容の投稿、地域の各層・各団体などからの投稿やご意見も、積極的に取り上げながら、楽しく読みやすい「センターだより」にしていきたいと思っております。

先日は、私的なことで恐縮ですが、「毎回発行を楽しみにしているよ」とのお言葉をいただき喜びと共に、発行についてもっと気を引き締めるべく思いを致したところです。

皆様には、今後益々「ふれあいセンター」が、更に活発に活動が出来ますように、今以上のご協力を頂きますことをお願い申し上げ、ご挨拶と致します。

「サマー・コンサート」について

八月二十日（日）に、小島地区ふれあいセンターで、長崎市民文化団体の「シルバー・アックス」による「サマー・コンサート」が開催されました。

アルトサククス、テナーサククス、トロンボーン、フルート、ベース、ギター、ピアノなどの楽器や、ボーカルにより、洋楽&カバール音楽の「思い出のサンフランシスコ」、「愛さずにはいられない」、「コーヒー・ルンバ」、「ダンシングヒーロー」や、邦楽&夏季音楽の「ブルーシャトール」、「真っ赤な太陽」、「天城越え」、「Tsunami」などの曲が演奏されました。

約四十名の観客の皆さんは、懐かしい曲の演奏に、耳を傾けて楽しいひと時を過ごされました。

（なお、演奏会の様子は、スマホにより、左上のQRコードで御覧いただけます）



邦楽特集

洋楽特集



長崎雑話（4） 竹方其

長崎の「尾曲り猫」（二）

江戸時代の長崎は、オランダ貿易の拠点、オランダ船は船内のネズミを駆除するために、猫と一緒に乗せていました。

これは、当時の海上保険の加入条件であったようです。オランダが運営していた東インド会社のアジア支店はバタビア（インドネシア）にあり、長崎に来て、おそらく、その時に乗っていた猫が船を降り、そのまま繁殖したのでしょう。

長崎では、尾曲り猫を当たり前のように見かけますから、猫のしっぽは曲がっているのが普通だと思っています。真っ直ぐなしっぽの猫は外来種、長崎にとって尾曲り猫は、そのくらい身近な存在です。猫は、市内のいたるところで見かける。

観光案内地図の上にたたずんでいる子猫、アイス売りのおばちゃんを持つているカステラを狙い窺がっている猫、話し掛けでも脇目もふれず一心に水を飲んでいる猫、二十六聖人殉教地のベンチにいる猫、気持ちよさげにひなたぼっこ中の猫、ベンチに座っている人にエサをおねだりしている猫、ネコ除けのペットボトルにお尻を向ける猫、カメラを取り出したらこちらに向かってくる猫、チャンポン屋の前に丸くなっている猫、平和公園にグラバー園に、商店街に、あらゆる

ところに猫の姿を見る。

本当に、長崎は猫が多い町である。

ひなたぼっこ中の猫



長崎 “てくてく” 町あるき 63 MK生
長崎電気軌道の諏訪神社下車、下流側に向います。

●長崎橋梁

・長崎の川と言え、真つ先に思い浮かぶのが石橋です。

中島川は江戸期には「大川」とも言われていました。

長崎名勝図絵によれば、石橋は他国には珍しいが、長崎には沢山

これがある。とし、製作の手順を記しています。

『この石橋を架けるには、まず、枿を組み立て、四角な石を、こ

の枿の上にならべ、固く蜜に締めて、橋の形が完全に出来たら、

枿を取りはずし、最後の完成となる。』としています。

これらの橋名は、最初は、地名や架設者に由来した俗称で呼ばれ、

江戸期には、阿弥陀橋から鏡橋(くろがねばし)までを、それぞれ

第1橋から第15橋と番号順に呼んでいましたが、正式な名称は

定められていませんでした。

現在の橋名の多くは明治15年(1882)頃に、当時の長崎区議長で漢

学者の西道仙が選定したものと云われます。

第1橋(阿弥陀橋)と第2橋(高麗橋)は “町あるき” 9で紹介

しています。

それ以外の橋と、港湾改良後に新たに架設された橋を紹介し、中

島川を下っていきます。

○第3橋(大井手橋) 大井手町

元禄11年(1698)岡市郎右衛門正敏が私財で架設。林道栄の銘。

(この銘石は、今はありません)

この橋は、2度洪水で流失しています。

文化元年(1804)長崎奉行所が架設。昭和57年(1982)長崎大水害で全

壊。昭和61年(1986)コンクリート橋で新設されました。

☆長崎民謡、長崎のお座敷歌の「長崎ぶらぶら節」に唄われています。

「大井手町の橋の上で子供の風喧嘩、世話町が五六町ばかりも、二三日ぶらぶら、ぶらぶらというたもんだいちゅー」

として市民に親しまれています。

長崎雑話 (4) 竹方其

長崎の「尾曲り猫」(一)

長崎の猫の特徴は、尾が曲がっているところから「尾曲り猫」と呼ばれています。尾曲り猫とは、いわゆる「かぎしっぽ」を持つ猫のことで、中国では、尾曲り猫が希少なためか「幸せの扉を開く鍵しっぽ」のようなことわざがあるとか、長崎でも、そのようにしっぽが幸せをひっかけると思っている人がいるようです。

長崎には、この尾曲り猫が多く、なんと八割近くにも上るのだとか。日本「長崎ねこ」学会が調べたところ、長崎ねこのしっぽは「曲りしっぽ」「短尾」「お団子しっぽ」の三種類に分けられるというので、その構成比は、曲りしっぽが三十%、短尾が二十七%、お団子しっぽが十八%ということでした。「短尾」とは、途中で切れたように短いしっぽのこと。太くて短いタイプも多く見られる。「お団子しっぽ」は、巻尾と呼ばれており、団子のようにしっぽを巻いているもので、短尾が更に短くなった結果、そのように見えるものもある。

尾曲り猫の原産地は、東南アジア、特にインドネシア近辺に多いことが調査により確認されている。

尾曲り猫



「秋の園芸教室」(主催講座)開催の御案内

日 時 10月28日(土) 午前10時~12時
 場 所 小島地区ふれあいセンター 1階 図書室
 内 容 秋の花の「寄せ植え」を楽しく学びます。
 (※ 持参していただく物 軍手、エプロン)
 講 師 沖 迫 司 先生 (フラワーおきさこ代表)
 受講料 無料
 定 員 25名 (先着順)
 申込先 小島地区ふれあいセンター (電話826-7703)
 申込方法 直接来所、又は、電話によるお申込み
 (午前10時~午後4時30分、月曜日は休館日)
 申込日 10月1日(日)~10月26日(木)
 皆様のご参加をお待ちしています!!



「第32回 小島地区ふれあいセンターまつり」開催の御案内

[作品展示]

日 時 11月25日(土) 午後1時~午後4時30分
 11月26日(日) 午前9時~午後3時30分
 場 所 小島地区ふれあいセンター 1階 図書室・児童図書館
 内 容 学習グループの皆さんの作品 (俳句、書道、水彩画など)
 保育園、小中学校の皆さんの作品



[舞台発表]

日 時 11月26日(日) 午後12時30分~午後3時30分
 場 所 小島地区ふれあいセンター 2階 第1研修室
 内 容 学習グループの皆さんの舞台発表 (コーラス、カラオケ、民謡、三味線、
 楽器演奏、健康体操、3B体操、太極拳など)
 特別出演 (子供日本舞踊)

